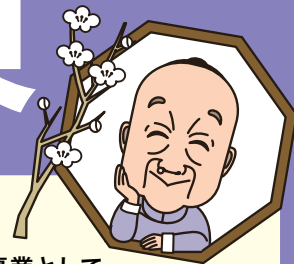


生誕180年記念

Wu Changshuo: The 180th Anniversary of His Birth

ご しょう せき

呉昌碩の世界



呉昌碩くん

挫折と栄光、まるごと呉昌碩ワールド!

東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画第21弾は、呉昌碩生誕180年記念事業として、台東区立朝倉彫塑館、兵庫県立美術館と時期を合わせて「呉昌碩の世界」を繰り広げます。東京国立博物館で118件、台東区立書道博物館で124件、台東区立朝倉彫塑館で35件、兵庫県立美術館で125件を展示します。また、ふくやま書道美術館においても、呉昌碩をテーマとした展示を行います。

東京国立博物館 東洋館8室 TOKYO NATIONAL MUSEUM

生誕180年記念 呉昌碩の世界—金石の交わり—

From Bronze and Stone to Ink and Brush

Wu Changshuo: The 180th Anniversary of His Birth

2024年1月2日(火)~3月17日(日) 前期:1月2日(火)~2月12日(月・休)、後期:2月14日(水)~3月17日(日)

開館時間 9:30~17:00(入館は閉館の30分前まで) ※金・土曜日は19:00まで開館

休館日 月曜日、1月9日(火)、2月13日(火) ※ただし、1月8日(月・祝)、2月12日(月・休)は開館

観覧料 一般 1,000円 大学生 500円
 ・高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料です。入館の際に年齢のわかるものをご提示ください。
 ・障がい者とその介護者1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。
 ・特別展「本阿弥光悦の宇宙宙」、建立900年 特別展「中尊寺金色堂」は別途観覧料が必要です。



東京国立博物館公式キャラクター

住所 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 電話 050(5541)8600(ハローダイヤル)

ウェブサイト <https://www.tnm.jp/>

交通 JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
 東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分 ※駐車場・駐輪場はありません

台東区立書道博物館 CALLIGRAPHY MUSEUM

生誕180年記念 呉昌碩の世界—その魅力と受容—

A Master Calligrapher's Allure and Reception

Wu Changshuo: The 180th Anniversary of His Birth

※下記以外にも展示替えあり

2024年1月4日(木)~3月17日(日) 前期:1月4日(木)~2月12日(月・休)、後期:2月14日(水)~3月17日(日)

開館時間 9:30~16:30(入館は閉館の30分前まで)

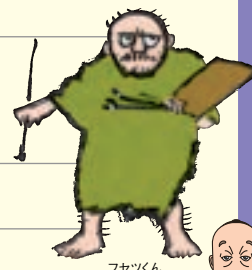
休館日 月曜日、1月9日(火)、2月13日(火) ※ただし、1月8日(月・祝)、2月12日(月・休)は開館

観覧料 一般・大学生 500円(300円) 高・中・小学生 250円(150円) ()内は20名以上の団体料金
 ・障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者福祉手帳、特定疾患医療受給者証の提示者とその介護者は無料です。
 ・毎週土曜日は台東区在住・在学の小、中学生とその引率者が無料です。

住所 〒110-0003 東京都台東区根岸2-10-4 電話 03(3872)2645

ウェブサイト <https://www.taitogeibun.net/shodou/>

交通 JR鶯谷駅北口より徒歩5分 台東区循環バス「北めぐりん」入谷区民館根岸分館(書道博物館)より徒歩3分 ※駐車場はありません



フセツくん



台東区立朝倉彫塑館 ASAKURA Museum of Sculpture, Taito

生誕180年記念 吳昌碩の世界—その魅力と受容—

A Master Calligrapher's Allure and Reception

Wu Changshuo: The 180th Anniversary of His Birth

2023年12月16日(土)~3月6日(水)

I期:12月16日(土)~1月10日(水)、II期:1月12日(金)~2月7日(水)、III期:2月9日(金)~3月6日(水)

開館時間 9:30~16:30(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月・木曜日、1月9日(火)、2月13日(火) ※ただし、1月8日(月・祝)、2月12日(月・休)は開館

観覧料 一般・大学生 500円(300円) 高・中・小学生 250円(150円) ()内は20名以上の団体料金

・障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者福祉手帳、特定疾患医療受給者証の提示者とその介護者は無料です。

・毎週土曜日は台東区在住・在学の小、中学生とその引率者が無料です。

住所 〒110-0001 東京都台東区谷中7-18-10 電話 03(3821)4549

ウェブサイト <https://www.taitogeibun.net/asakura/>

交通 JR、京成線、日暮里・舎人ライナー
日暮里駅北改札口を出て西口より徒歩5分 台東区循環バス「東西めぐりん」谷中霊園入口下車徒歩8分

兵庫県立美術館 常設展示室6 HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

生誕180年記念 吳昌碩の世界—海上派と西冷名家—

Shanghai School and Great Masters of Xiling

Wu Changshuo: The 180th Anniversary of His Birth

2024年1月13日(土)~4月7日(日) 前期:1月13日(土)~2月25日(日)、後期:2月27日(火)~4月7日(日)

開館時間 10:00~18:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日、2月13日(火) ※ただし、2月12日(月・休)は開館

観覧料 一般 500(400)[300]円 大学生 400(300)[200]円

()内は20名以上の団体料金、[]内は特別展とのセット料金

・高校生以下は無料。満70歳以上の方、障がい者手帳等をお持ちの方は証明できるものをご提示いただきましたら割引になります。

・障がい者手帳等をお持ちの方1名につき、介助の方1名は無料です。

・毎月第2日曜日(公益財団法人伊藤文化財団のご協賛)、1月17日(ひょうご安全の日)は無料でご覧いただけます。

住所 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1(HAT神戸内) 電話 078(262)1011(代表)

ウェブサイト <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

交通 JR神戸線灘駅南口より徒歩10分
阪神電車岩屋駅(兵庫県立美術館前)より徒歩8分 阪急電車神戸線王子公園駅西口より徒歩20分

ふくやま書道美術館

「冬の所蔵品展1 ベストセレクション—必見!日中書の名品」と題し、

「特集 生誕180年記念 吳昌碩と朋友との結びつき」を開催中!

2023年12月21日(木)~2024年2月12日(月・休)

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日、1月9日(火) ※ただし、1月8日(月・祝)、2月12日(月・休)は開館



展覧会概要

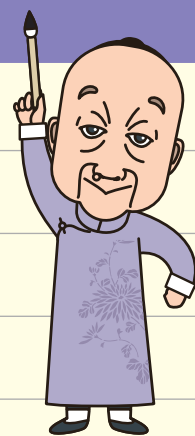
清時代の末期から中華民国の初期にかけて、詩・書・画・印に妙腕をふるった吳昌碩(1844~1927)は、清朝の掉尾ちようびを飾る文人として知られています。吳昌碩は、古代文字の研究に励み、中でも「石鼓文」せつこぶんは晩年まで臨書し続けました。古拙な味わいを内包した吳昌碩の作風は多くの人々を魅了し、後年、吳昌碩は上海芸苑の中心人物となりました。また、日本の文化人や芸術家との交流も深く、日本に現存する吳昌碩の作品や手紙などから、その一端を窺うことができます。

2024年は、吳昌碩の生誕180年にあたります。このたび21回目となる東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画では、吳昌碩生誕180年記念事業として、台東区立朝倉彫塑館、兵庫県立美術館と時期を合わせて「吳昌碩の世界」を繰り広げます。さらに、ふくやま書道美術館においても、吳昌碩をテーマとした展示を行います。

在世中から現代にいたるまで、内外において高い評価を博した吳昌碩作品の魅力と、かたちを超えた吳昌碩オーラを、日本の東西で存分にご堪能ください。

吳昌碩 Wu Changshuo プロフィール

名	<small>しゆん しゅんけい</small> 俊、俊卿
字	<small>こう ぼ そう せき そう せき しょうせき</small> 香圃、倉石、蒼石、昌碩
号	<small>ふる くてつ ふ おう ろう ふ たいろう</small> 缶廬、苦鉄、缶翁、老缶、大龔など
室号	<small>せい うん かん さつ ころ へき し どう</small> 齊雲館、削觚廬、癖斯堂など
生年	清時代・道光24年(1844)8月1日(新暦9月12日)
干支	甲辰(きのえ・たつ)
星座	しし座
卒年	中華民国16年(1927)11月6日(新暦11月29日) 享年84
出身	<small>せつ こう あん きつ けん</small> 浙江 安吉県
許嫁	<small>しょう し</small> 章氏
妻	<small>し しゅ</small> 施酒
息子	<small>こ いく こ かん こ まい</small> 吳育、吳涵、吳邁
娘	<small>こ たん こう</small> 吳丹姮
好きな古典	<small>せつ こ ぶん たい ざん こく せき</small> 石鼓文、泰山刻石など
好きな食物	たけのこ、すいか など



※以下の章立ては図録に基づいており、各館における実際の展示構成とは一部異なります。

第1章 吳昌碩前夜

18世紀の後半以降、古代の青銅器や石碑など金石の書を表現の拠りどころとする碑学派や金石画派が勃興します。吳昌碩が活躍する前夜、鄧石如は書と篆刻に新生面を開き、碑学派の先駆者、鄧派(皖派)の祖として後世に絶大な影響を与えました。吳熙載、楊沂孫、徐三庚、胡澍、趙之謙は、鄧石如に連なる代表的な人物であり、なかでも吳熙載と趙之謙は、金石に根差した書法を、篆刻のみならず絵画の表現にも取り入れました。

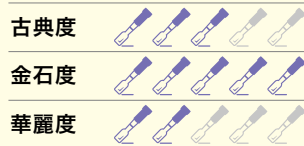


(部分)

帖学を碑学に変えた布衣の筆

四体帖
鄧石如筆 2帖

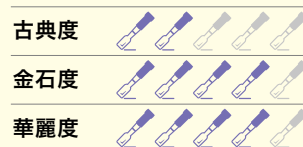
清時代・嘉慶2年(1797)
高島菊次郎氏寄贈
東京国立博物館蔵
東京国立博物館展示・後期



碑学派の理論やここに昇華され

枇杷図軸
趙之謙筆 1幅

清時代・19世紀
青山杉雨氏寄贈
東京国立博物館蔵
東京国立博物館展示・前期



第2章 吳昌碩の生涯—詩書画印と師友—

幼い頃から父について読書を始め、塾に通って勉学に励んだ吳昌碩でしたが、太平天国の乱によって、17歳から21歳まで^{せいさん}凄惨な避難生活を強いられます。乱の収束後、^{はんしげい}潘芝畦に文学や^{せよくしやう}絵画、^{せよくしやう}施浴升に詩や書法を学びました。

30代は、^{ゆえつ}俞樾、^{ほんそいん}吳雲、^{こたいちやう}潘祖蔭、^{こたいちやう}吳大澂ら^{こたいちやう}收藏家の知遇を得て、^{しやう}書画・^{たふほん}拓本・^{せいどうぎ}青銅器・^{こくふ}古印などを鑑賞し、見識を広めていきます。37歳で知り合った^{やうけん}楊峴は、吳昌碩を啓発した大切な存在でした。また39歳で出会った^{しんせきゆう}沈石友は、作品制作に忙殺される吳昌碩を陰から支えてくれました。

44歳の時に友人の資金援助で^{けんじやう}上海県丞の官職を買い、56歳で^{あんどう}安東県の知事となりますが、僅か1ヶ月で辞職し、その後は書画印で生計を立てます。

60代には独自のスタイルが確立し、70歳で^{せいらいいんしゃ}西泠印社の社長に就任、^{りやうしゆう}芸苑の領袖となり、書画印を求める人も急増しました。70代は作品が最も多く、80代には融通無碍の境地に達します。



楊峴は隸書に専心一家なす

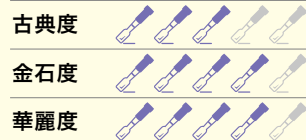
^{れいしよろうし}隸書老子一節扇面

^{やうけん}楊峴筆 1面

清時代・19世紀

青山慶示氏寄贈

東京国立博物館蔵 東京国立博物館展示・前期



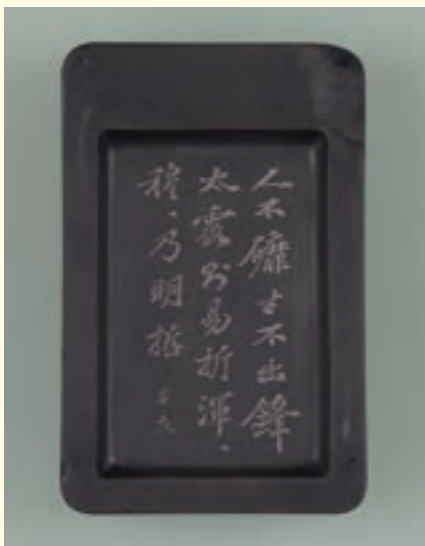
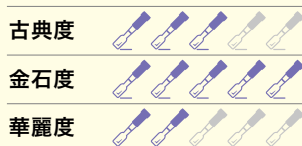
親友に印刻したり蒲作英

^{ほさくえい}「蒲作英」朱文方印

^{こしやうせき}吳昌碩刻 1顆

清時代・光緒12年(1886) 43歳

兵庫県立美術館蔵(梅舒適コレクション) 書道博物館展示・通期



硯陰



硯面

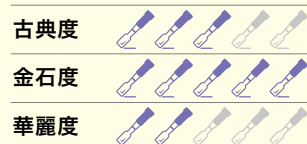
愛石を通して護る古き道

^{まじんけん}磨人硯(沈氏研林所載硯)

^{こしやうせき}[銘]吳昌碩、^{しんせきゆう}沈石友 他 筆

清時代・光緒31年(1905) 62歳

個人蔵 書道博物館展示・通期



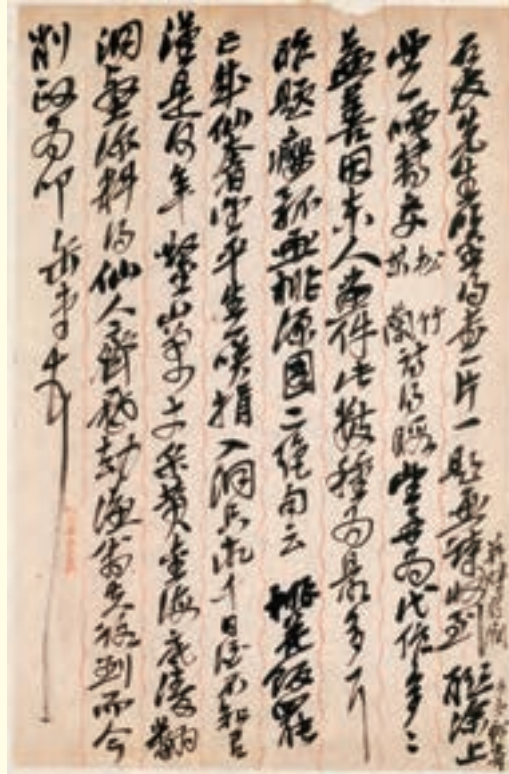


澆墨の諧調ここに極まれり

とう かん まん す じく
藤花爛漫図軸

こしやうせき
吳昌碩筆 1幅

中華民國5年(1916) 73歳
個人蔵 東京国立博物館展示・後期



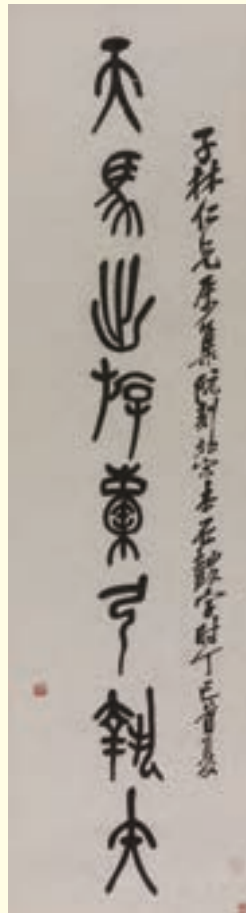
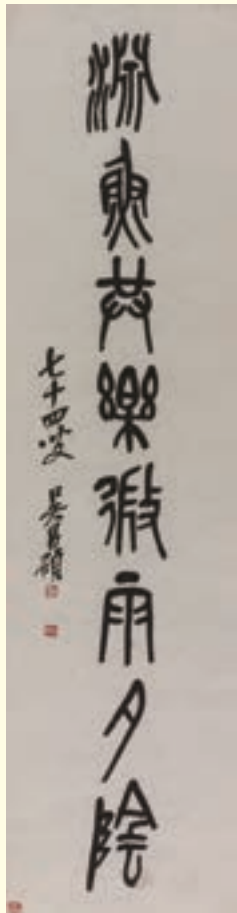
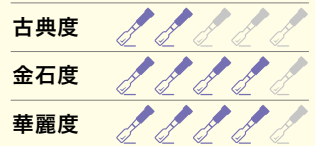
(部分)

芸苑の領袖支える布衣の友

こしやうせき せき とくしゅう
吳昌碩尺牘集

こしやうせき
吳昌碩筆 44葉

清～中華民国時代・19～20世紀
ふくやま書道美術館蔵
書道博物館展示・通期

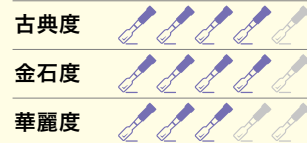


退廃を集めて清き石鼓聯

てん しよ はち こん れん
篆書八言聯

こしやうせき
吳昌碩筆 2幅

中華民國6年(1917) 74歳
林宗毅氏寄贈
東京国立博物館蔵
東京国立博物館展示・通期



第3章 領袖としての吳昌碩

中華民国と改元した1912年、69歳で吳俊卿は名を「昌碩」に改めます。この頃、上海を中心に美術社団が数多く組織されました。吳昌碩は西泠印社の初代社長に推挙され、海上題襟館金石書画会では会長に就任するなど、書画篆刻界の発展に大きく貢献しました。彼の子息を含め、海上派や西泠印社社員の書画篆刻家たちは吳昌碩の薫陶を受け、弟子となる者も数多く現れました。70代以降、吳昌碩は名実ともに芸苑の領袖として君臨します。



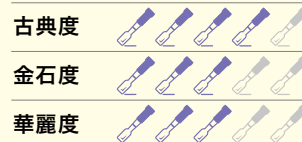
(部分)



昌碩に学んで別に幟を立て

蘆鳥図軸
王一亭筆 1幅

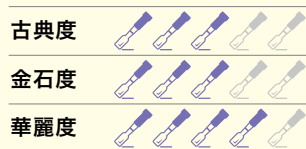
中華民国時代・20世紀
台東区立朝倉彫塑館蔵
書道博物館展示・後期



大衆の心をつかむ筆の痕

書画冊
陳年筆 1冊

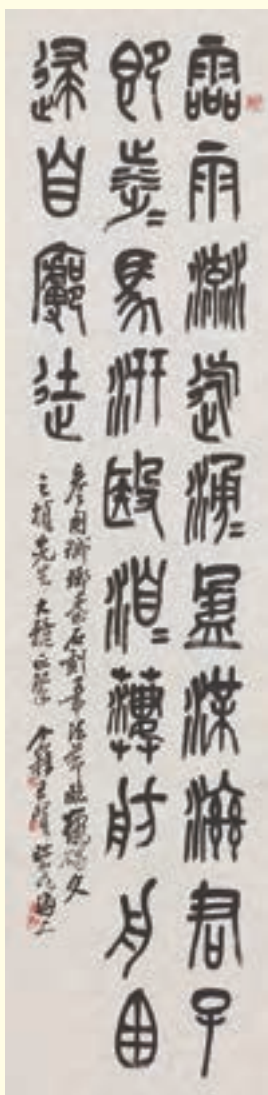
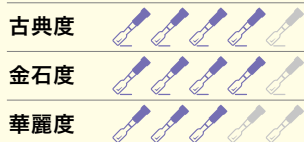
中華民国元年(1912)
戸田直温氏寄贈
東京国立博物館蔵
東京国立博物館展示・後期



昌碩の商標ここに受け継がれ

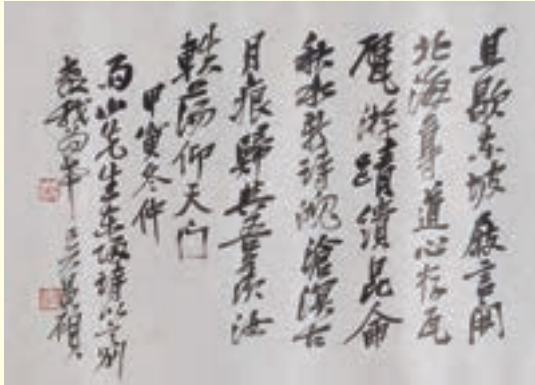
臨石鼓文軸
王个移筆 1幅

中華民国～中華人民共和国時代・20世紀
個人蔵 東京国立博物館展示・後期



第4章 吳昌碩と日本人

明治24年(1891)、日下部鳴鶴くさかべめいかくは吳昌碩らと親交を結び、吳昌碩の刻印を持ち帰りました。それに刺激を受けた山田寒山やまだかんざんや河井荃廬かわいせんろは、吳昌碩の教えを乞うべく渡清します。河井荃廬は、以後幾度も上海を訪れました。
 長尾雨山ながおうえんは、吳昌碩の近隣に住み、詩文を応酬し、芸を談じ、忘年の交わりを結びました。
 彫刻家の朝倉文夫あさくらふみおは、吳昌碩の胸像を制作しました。お礼に吳昌碩から手紙や書画を贈られています。



(部分)



しめやかな別れ絵筆に華やぎて

かいひん わべつ ずかん
海浜話別函巻

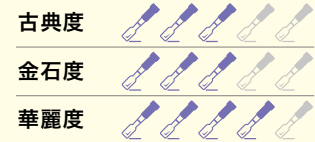
りくかい
[画] 陸恢筆

ごしやうせき
[書] 吳昌碩 他筆 1巻

中華民国3年(1914) 71歳

京都国立博物館蔵

書道博物館展示・後期



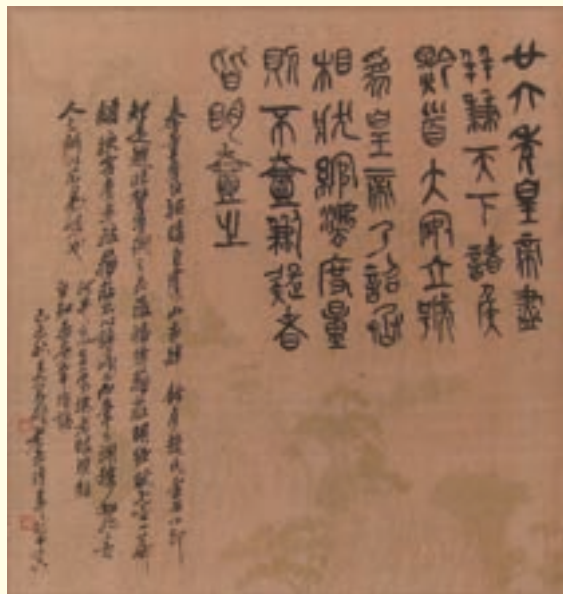
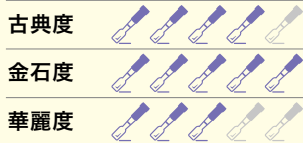
ひのものと篆刻変えた師弟愛

りん しん けん りやうめい じく
臨秦権量銘軸

ごしやうせき
吳昌碩筆 1幅

中華民国8年(1919) 76歳

個人蔵 書道博物館展示・後期



国境を越えて心は響きあい

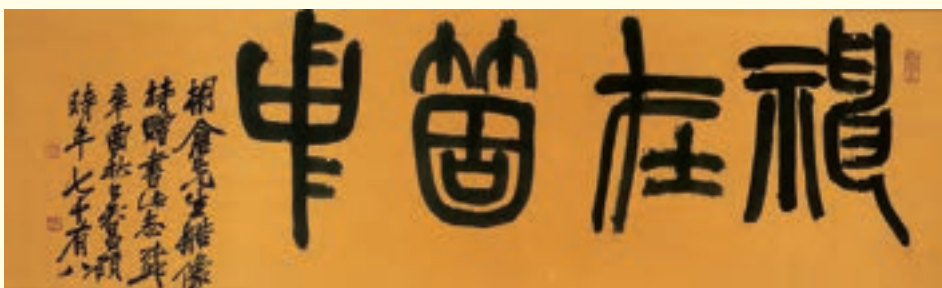
てん しよ しん ざい こ ちやうがく
篆書神在箇中額

ごしやうせき
吳昌碩筆 1面

中華民国10年(1921) 78歳

台東区立朝倉彫塑館蔵

朝倉彫塑館展示・通期



梅舒適コレクションについて

今回の連携企画では、令和元年と3年の二度にわたって兵庫県立美術館に寄贈された、梅舒適(1916~2008)のコレクションを書道博物館においてご紹介しています。

梅舒適が、約60年にわたる歳月をかけて収集した、近世、近代の中国書画、文房具、書籍、そして梅舒適自身の書画や篆刻作品などが寄贈されました。中でも、梅舒適が敬愛の念を抱き、情熱を持って収集した呉昌碩の作品は、未公開の貴重なものが数多くあります。兵庫県立美術館では、寄贈されたコレクションを「梅舒適コレクション」と称して、調査・研究、および公開を継続的に進めています。

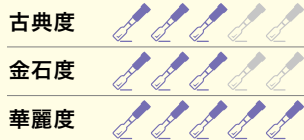


梅が香にそっと魅かれる令夫人

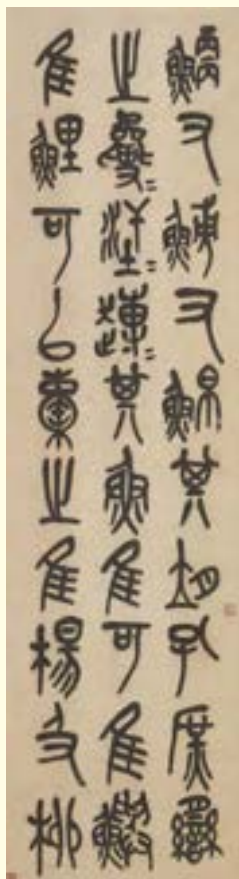
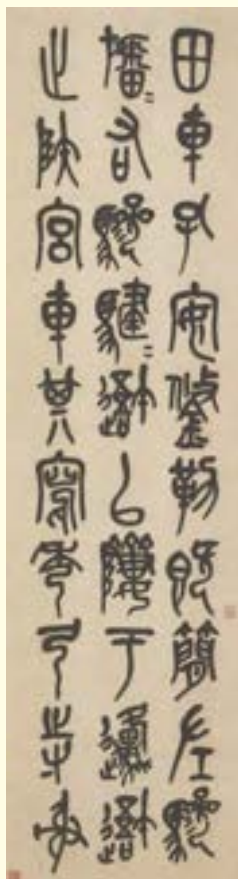
こうばいずしゅく
紅梅図軸

こしょうせき
呉昌碩筆 1幅

中華民国6年(1917) 74歳
兵庫県立美術館蔵(梅舒適コレクション)
書道博物館展示・後期



梅舒適くん

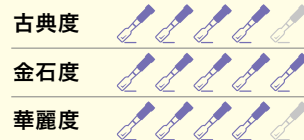


昌碩の真の骨頂ここにあり

りんせつこぶんしへい
臨石鼓文四屏

こしょうせき
呉昌碩筆 4幅

中華民国7年(1917) 75歳
兵庫県立美術館蔵
(梅舒適コレクション)
書道博物館展示・通期



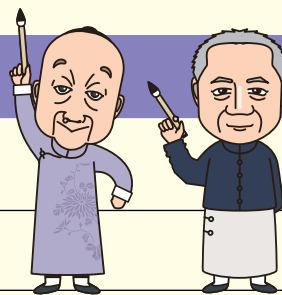
関連イベント

台東区立朝倉彫塑館

展示について理解を深める ギャラリートーク特別編

日時：2024年1月17日(水) 春田賢次朗(台東区立書道博物館)
2月21日(水) 六人部克典(東京国立博物館)

2月7日(水) 植松瑞希(東京国立博物館)
いずれも14:00～14:30 ※事前申込不要、要観覧料



王一亭くん

台東区立書道博物館

ギャラリートーク「吳昌碩の世界」

中村信宏(台東区立書道博物館)

日時：2024年2月4日(日) ①11:00～12:00、②14:00～15:00 3月3日(日) ③11:00～12:00、④14:00～15:00
定員：各回20名(事前申込制、応募多数の場合は抽選)

夜桜漫談「吳昌碩の世界－光と闇－」

富田淳(九州国立博物館)、鍋島稲子(台東区立書道博物館)

日時：2024年3月15日(金)⑤18:00～19:30

会場：ミレニアムホール(台東区生涯学習センター2F)

定員：300名(事前申込制、応募多数の場合は抽選)

申込方法：書道博物館ウェブサイトの申込フォームまたは往復はがきでお申込ください。

各回申込はお1人につき1回までです(1回の入力で1名のみ申込可)。

申込期間：①・② 1月5日(金)～1月24日(水) / ③・④ 1月25日(木)～2月21日(水) / ⑤ 2月1日(木)～2月29日(木)

【往復はがきの場合】「往信用裏面」に、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、希望日時を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記し、左記までお申込ください。締切：申込期間の最終日必着 ※聴講無料、①～④は要観覧料

申込先：〒110-0003 台東区根岸2-10-4 書道博物館イベント係

ワークショップ「吳昌碩の書に挑戦！」

2024年1月14日(日)、2月4日(日)、3月3日(日) いずれも9:30～16:00、事前申込不要、要参加費100円

兵庫県立美術館

講演会「吳昌碩の世界」

富田淳(九州国立博物館)、鍋島稲子(台東区立書道博物館)

日時：2024年2月18日(日) 14:00～15:30

会場：ミュージアムホール

定員：150名 先着順、聴講無料、要観覧料

※兵庫県立美術館「芸術の館」友の会会員優先席あり

学芸員による解説会

日時：2024年1月20日(土) 柏木知子(兵庫県立美術館)

3月9日(土) 剣持翔伍(兵庫県立美術館)

いずれも15:00～15:45

会場：レクチャールーム

定員：60名 先着順、聴講無料

報道関係の方からの問い合わせ先

「吳昌碩の世界」広報事務局 担当：富樫、大原

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206

TEL:03-6275-0241 / 携帯:080-5443-1112 E-mail:press@annex-inc.jp

